

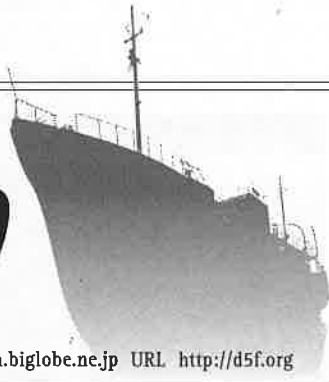
2008.08.01  
No.346

(7・8月合併号)

# 福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumar@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



6月23日に開かれたオープニング記念会。あいさつの後、報道陣への写真撮影に  
応じる男鹿さんと吉永さん。24日からの公開にはたくさんの来館者があり、広島、  
長崎と「ウミガメと少年」の作品に見入っています。撮影 飯田邦生



男鹿和雄展——ヒロシマ・ナガサキ・オキナワ

## オープニング記念会開く

この日、展示館にはセレモニーの開始までの間に『ウミガメと少年』の映像と朗読が流れていました。男鹿和雄さんの絵は透明な優しさに溢れ、吉永小百合さんの声は慈しみに満ちていました。

梅雨の中、うつつすらと晴れた六月二三日は沖縄慰霊の日。この日を選んで沖縄戦題材の展覧会「ウミガメと少年 第五福竜丸と海へ」の開幕です。来場者は一〇〇人を超え盛況でした。

主催者を代表して第五福竜丸平和協会の川崎昭一郎会長が挨拶、安田和也事務局長が展示内容を説明。フルートの荒川洋さん(新日フィル)、ギターのマーティン・フォゲルさんによる演奏につづいて男鹿さんと吉永さんが挨拶しました(2面要旨)。

男鹿さんは描かれた絵と同じように優しい語り口でした。「いまここに広島・長崎・沖縄・第五福竜丸の四つの力

が重なりあいました」と語りました。つつましく気品を漂わせた吉永さんは「先程の演奏は沖縄の死者たちに届いたでしょうか」と語り始め「八月六日、九日、一五日にも開かれているこの展示にぜひ多くの子もたちに来てほしい」と結びました。

第五福竜丸を背景に、取材陣による二人の撮影でたくさんのフラッシュが焚かれ、傍から見ると第五福竜丸はとても誇らしげに胸を張っているようでした。

初めて展示館を訪れた吉永さんは、子どもたちの手になる折鶴や小さなメッセージにしばらく目を留めていました。

記念会の後はレセプションが展示館横の庭で開かれ、参加者はボランティアメンバーによる手づくり料理と飲み物を手に談笑し、温かな気持ちで帰途につきました。

(記事・寛美知子)

## 原爆詩朗読のきっかけは福竜丸… 記念会でのあいさつから

### 四つの力の不思議な出会い

男鹿 和雄

本日は、たくさんお見え下さりありがとうございます。雨も上って本当に良かった。

吉永小百合さんが長年続けて来られた「第二楽章」の朗読が、広島、長崎、沖縄へと内容を紡いできました。その間に作られたCDや本に私も微力ながら挿絵を描かせていただきました。

今回新たに早川敦子さんの英訳とともに、画文集として『ウミガメと少年』を作っていただきました。作るにあ

たり快く送り出して下さった野坂昭如さん、黒田征太郎さんには、感謝の気持ちで一杯です。

新たな船出となった「ウミガメと少年」ですが、「第二楽章」の一員、沖繩編として観ていただくことになると思います。

広島、長崎の絵と一緒にこの第五福竜丸の大きな船体に寄り添うように「ウミガメと少年」の絵が展示されているのを先程見ました。

四つの力が不思議な出会いをし、合わさった感じがしています。

「第五福竜丸は航海中」とのことです。その航海の目的に少しでも近づけるように、この展示で合わさった四つの力がお役に立てたらこんなに嬉しいことはありません。

このような機会を作って下



さった展示館の皆さん、関係者の方に心より感謝申し上げます。

### ここにきて想い起してほしい

今日は六月二三日、沖繩慰霊の日です。先程の素晴らしい演奏を聴いておりまして沖繩の地上戦で亡くなった二〇万人以上の方たちのところにもきつとこの音色が届いたことだろうと思いました。

私が小学生の時に久保山愛吉さんのことを知りました。毎日、ラジオで久保山さんの病態が放送され、何とか回復してほしいと祈っていたこと

### 主催者挨拶より たゆみない航海を

川崎昭一郎

本日はたくさんの方がご参加くださいましてありがとうございます。ありがとうございます。

開会に先立ちまして「ウミガメと少年」をご覧いただきましたが、美しい自然が克明に描かれており、戦争に対する怒りなどは表立っては出てきませんが、それがかえって心をうちます。朗読（CD）を通して耳に

するとまた違った響きで感じられます。

第五福竜丸とウミガメは海でつながっています。お母さんガメは休むことなく、大海原を行きつ戻りつ生きていることが語られました。が、第五福竜丸もまた核兵器のない未来に向かつてたゆみない航海を続けていくと思います。

### 吉永小百合

を今も覚えています。

今日、このような形で男鹿さんの絵の展示が第五福竜丸展示館の中で行われるというのはとても素晴らしいことだと思いますし、関係の方々为本当に努力して下さいからこそ感無量です。

私が男鹿さんの絵を知ったのは、一二年ほど前になりました。「第二楽章・広島から」を朗読しCDを作ることになっ

た時、あまり過激でなく、しっかりと皆さんの心に届くようなカバーの絵を描いて下さる方々を思っていました。あの雑誌で男鹿さんの絵を見て「この方しかいない」と思ってお願いました。男鹿さんはジブリの新作にかかっていらして本当にお忙しかつたのですが、私たちの熱意に負けてでしょうか「やりましょう」と言ってくれました。それからもう一〇年以上です。

今回の『ウミガメと少年』は、野坂昭如さんが戦争童話（3めんにつづく）



としてお書きになって黒田征太郎さんが絵を描かれています。野坂さんは「沖繩のこととはとても辛くて書けない」とおっしゃったそうです。でも黒田さんが「とにかく沖繩に行きましょう」と連れ出して、沖繩の海岸でこの物語が生まれたとうかがっています。

そのお二人の共同作業による作品を、男鹿さんと私に委ねて下さった野坂さんと黒田さんに本当に感謝しています。

今日は朗読できないのですが、これからずっと朗読していきたいと思えます。この展覧会は、八月六日、九日、一五日にも開かれています。多くの方がここに来て六三年前のことを思い起してほしいですし、またこのことを知ら



ないお子さんも、お母さんや展示館の案内の方にいろいろ聞いて学んでほしいと願っています。

今日はお忙しい中、マスコミの方たちもおいでいただき、本当にありがたく思っております。ありがとうございますました。

### 沖繩戦とウミガメと少年

「ウミガメと少年」は、沖繩戦の最中に祖父母をなくし一人ぼっちになり、ガマ（沖繩南部の自然洞窟）にひそんだ哲夫少年のものがたり。目の前の砂浜に産卵に来たウミガメとの出会い、激しい艦砲射撃、そして卵を産み終えて

母ガメが去ったあと、卵を大事に守りながら、空腹からいつしか卵を全て飲んでしまいい、少年は海の中に消えていってしまうのです。

\*

哲夫少年とウミガメが遭遇した沖繩戦、その死者は二〇万人以上、そのうち沖繩県民の犠牲者は一二万人にのぼり軍人の死より多い。三カ月余にわたる沖繩戦の説明と当時のガマから掘り出された日本軍の鉄カブト、飯ごう、水筒、軍靴など現物資料を展示。あわせて吉永さんの朗読、男鹿さんの絵を構成したDVDによりこの作品を鑑賞、沖繩戦について知ろうというミ



沖繩戦の遺品

ニコーナーを設けました。

### 折りガメと陶製のカメの作品

特別展示として男鹿和雄さんが折られた「折り紙のカメ・折りガメ」（国際折り紙研究会創設者の吉澤章氏考案）を十数匹展示しています。また、デザイナーの栗津潔（あわづきよし）さん製作の陶製のウミガメ作品を甲板に展示しました。



栗津さんのカメ



折り紙のカメ

野坂昭如 戦争童話集 沖繩篇

作 野坂昭如 絵 男鹿和雄  
英訳 早川敦子

# ウミガメと少年

A Green Turtle and a Boy

野坂昭如が綴る平和への願いに、ジブリの絵職人、男鹿和雄が新たな生命を吹き込む。

語り継ぎたい、物語がある。

描き下ろしカラーイラスト  
30数点を掲載。  
英訳版も同時収録。

DE 別変型横ハドカバー★定価1,780円（税別）  
編集発行 スタジオジブリ 児童書問屋吉

沖繩の海岸に卵を生むウミガメと、戦争でひとりぼっちになってしまった少年の出会いに、胸がいつぱいになりました。この物語を、戦争のない世界を願いながら、朗読し続けようと思えます。

吉永小百合

徳間書店 〒105-8055 東京都港区芝大門2-2-1 TEL.048-451-5960(受注)  
http://www.tokuma.jp ※最寄りの書店にてお求めください。

## 特別展の展示リスト及び協力者名簿

### 1. 男鹿和雄・作品 39 点

#### \* 第二楽章 広島

- ・「原爆詩集」(1952)の序 峠三吉
- ・夕焼けの原爆ドームと灯籠流し
- ・映画「はだしのゲン」で使用した原爆雲
- ・被爆直後の惨状
- ・焼け跡の市電の残骸
- ・「生ましめんかな」の挿絵
- ・太田川を見下ろすおじいさん
- ・広島郊外の田舎の風景
- ・平和記念公園にある「原爆の子」の像

#### \* 第二楽章 長崎から

- ・木場から浦上方面を見ての原爆雲想像図
- ・原爆で破壊されたシスター像
- ・如己堂
- ・山王神社の一本足の鳥居
- ・アンゼラスの鐘 (夜景)
- ・夕方の山王神社の大クスの木
- ・茅野と誠一の疎開先、木場の風景をイメージして

#### ・マリア像

#### \* ウミガメと少年

- ・沖縄の海岸
- ・黒潮にのって
- ・月に照らされた白い浜
- ・昼のように明るい浜
- ・水平線に突然生まれたたくさんの小島
- ・お母さんがメをずっと見ている子ども
- ・卵を産むお母さんがメ
- ・南へ飛ぶ日の丸をつけた飛行機
- ・米艦隊とグンバイヒルガオ
- ・自然の洞窟“ガマ”
- ・逃げさまよう哲夫
- ・ガマの張り出しにすわり、海を埋めつくす光を見る
- ・艦砲爆撃の中、浜に上がるウミガメ
- ・卵を掘り起こす少年
- ・ボロボロになった服に卵を並べる
- ・戦争が終わったのを知らず海藻を探して歩く
- ・卵を抱きうずくまったまま、海をながめる
- ・最後の卵をすすりこむ
- ・日の出とともに赤く染まる空

- ・広い海の中を泳ぐアオウミガメ

- ・サトウキビ畑

- ・グンバイヒルガオの花

### 2. 野坂昭如 戦争童話集コーナー

- ・戦争童話集の展示
- ・野坂昭如さんからのメッセージ
- ・黒田征太郎さんからのメッセージ
- ・映画「火垂るの墓」予告編

### 3. ウミガメと少年が見た沖縄戦

- ・沖縄戦をたどる 解説パネル3点 (執筆協力 小那覇安剛)
- ・遺品—鉄かぶと、飯ごう、水筒、軍靴、めがね (南風原文化センター所蔵)
- ・映像と音声「ウミガメと少年 男鹿和雄・絵、吉永小百合朗読CD」(加藤淳一構成)

### 4. 吉永小百合 映像展示

NHK「祈るように語り続けたい」広島編、長崎編

- ・吉永小百合さんからのメッセージ

### 5. 船体甲板・特別展示

- ・粟津潔制作 ウミガメ 1987年陶製
- ・男鹿和雄 ヒロシマ、ナガサキの作品 複製大型パネル

### 6. 折り紙のカメ

製作・男鹿和雄、吉澤 章氏の創作折りガメ (国際折り紙研究会)、協力・吉澤喜代

#### 【特別展協力者】

黒田征太郎、長友啓典、上浦智宏、中村 健、小那覇安剛、奥村茂樹、粟津ケン、秋山 潔、加藤淳一、飯田邦生、カワチキララ、笈 美知子、荒川 洋、マーティン・フォーゲル、吉澤喜代

南風原文化センター、日本工学院専門学校、第二楽章を語り継ぐ会、スタジオジブリ、夢の島熱帯植物館、徳間書店、レストラン・パリセチエム、第五福竜丸ボランティアの会

デザイン K2 (ポスター、展示)



展示館入り口の熱帯植物  
提供  
都立夢の島熱帯植物館

# 沖縄と向き合う

野坂昭如

勝っても負けても、戦争は悲惨である。戦争はいけない。言葉で語り継ぐことの難しさを知りつつ、ほくに来ることは書くことしかない。

昭和二〇年六月五日。ぼくは神戸で焼け出された。同月下旬、沖縄で戦争が終ったと新聞で知った。

それまで、大本営発表によって日本が勝っているかのように思われていた。それが一変、神戸の空襲によりぼくの家は焼け、父が死に、母と祖母は大怪我。幼い妹とぼくだけが残った。ぼくは生きるのに必死だった。

沖縄の現状は知らない。だ

が米軍が上陸すれば、次は日本列島の中心部であると、子どもでも判る。

地上戦のあつた沖縄について、深くは考えられない。ただ皆殺しだけを考え、ひたすら逃げることにしか頭になかった。戦争が終り、読めなかった資料を手にし、沖縄を知った。

日本にも少年隊があつた。沖縄では、一四歳の皇軍兵士がいた。彼らは鉄血勤皇隊と呼ばれ、その詳細や何人死者が出たのかも明らかにされていない。一四歳といえは当時のぼくと同じ。本土ではせいぜい勤労奉仕。地上戦は本土の空襲に比べて、その被害、恐怖感などケタが違う。空襲の場合二、三時間の恐怖。敵が正面からやってきた沖縄。

アメリカ兵による民間人虐殺、また、日本兵の足手まといとみなした島民への乱暴な振る舞い。島言葉を使わない語と受け取り、殺す場面もあ

った。

本土の、辺り一面焼け野原は都市に限られる。沖縄は全島が射撃、爆撃され、あるのは廃墟と死体だけとなる。これを生き残った島民が片付けてる。死者は判っているだけで二三十万人。

ぼくは地上戦を知らない。敵弾は常に上から降つてきた。水平に飛ぶ弾の経験がない。その恐さは計り知れない。ぼくに沖縄が判らない。黙るより他はないと気になりながら、つまり避けていた。

『火垂るの墓』に続き『戦争童話集』という一二篇からなる物語を出版、自分なりに戦争を書いたつもりだった。七〇歳を意識し始めた頃、ずつと逃げてきた沖縄と向き合うことを決意した。彼の地へ通い、いろんな話を聞いた。しかし、共通して言えることは、その経験についてあまり喋らない。さらに言えば、あつたらんと明る。深刻ぶつているぼくを笑ひ飛ばす勢い。ぼくの逢つた多くの方がそうだった。

沖縄に行けば行くほど書けなくなり、時間は過ぎた。し

かし平成二二年二月八日、徹夜でなんとか書き終えた。戦争は人間を残酷にする。人が人でなくなってしまう。何も生みださない。

この『ウミガメと少年』はあくまで童話。この物語を読んで、戦争の悲惨さを、少しでも感じてもらえたら有り難い。(『ウミガメと少年』出版に際してのメッセージ)

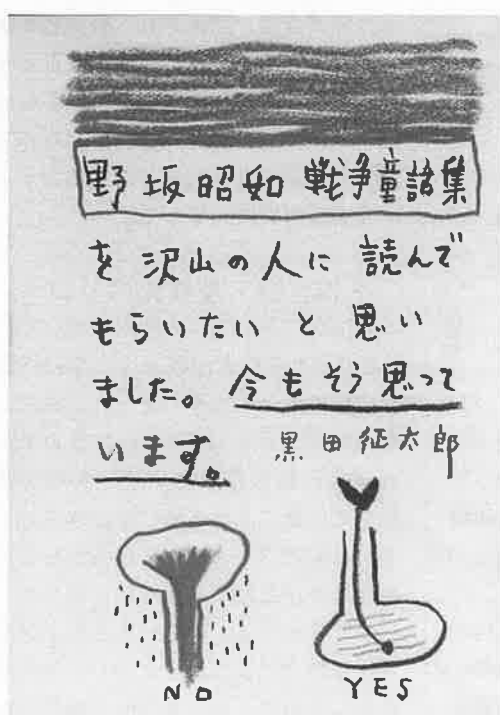
## 野坂さんの戦争童話集とは

一九七一年に雑誌「婦人公論」に連載され、中央公論社より単行本化された一二編の作品。氏の戦争体験にねざす

代表作「火垂るの墓」につづく戦争文学。イラストレーター黒田征太郎氏は、この作品に触発され、絵本、DVDを製作、野坂氏に沖縄戦を扱った作品の執筆を依頼した。二〇〇一年、「ウミガメと少年」ができあがり講談社より出版された。



戦争童話集コーナー



黒田征太郎さんからのメッセージ

## 入館者が通算 450 万人に



7月6日、開館以来の来館者が450万人に達しました。450万人目の家族は品川区からきた小林百奈さん(5歳)隼人くん(5歳)、両親の伸寛さんと眞知子さん。協会から記念証と記念品の男鹿和雄さん作の「折りガメ」と開館記念オリジナル飴、絵本『わすれないで』が手渡されました。来館者ノートに伸寛さんは「小学生のときよく近くを通っていたのに見学できず、30年越しの初来館です。平和を大切にできるよう、親子ともども努力していきたいと思います」と記しました。

展示館は1976年6月開館、ビキニ水爆実験被災50年の2004年6月に400万人に達していました。

## 松井康浩さん逝去

第五福竜丸平和協会の顧問で弁護士の松井康浩さんが6月5日、肺炎のため逝去されました。享年85歳。

松井さんは、被爆者への賠償を求める東京地裁での原爆裁判で、63年に「原爆投下は国際法違反」の判決を導きました。日本弁護士連合会事務総長、日本民主法律家協会役員などを歴任され、第五福竜丸平和協会には、財団創設の1973年11月より監事に就任、91年より2003年まで理事として展示館と協会の事業に貢献されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

## ボランティアの会 研修旅行で焼津と静岡へ

6月2日～3日、ボランティアの会は研修旅行をおこないました。

2日の早朝、一行を乗せたマイクロバスは渋谷ハチ公前から一路焼津へ。最初の訪問は、昨年「船大工の技と仕事」展でお世話になった近藤和船研究所。ここには、第五福竜丸の6分の1模型をはじめ日本伝統の和船模型、大工道具や艦装品が多数収蔵されています。同行の大石又七さんからカツオ船、マグロ船の特長や機能の説明を受けました。

その後、協会評議員の飯塚利弘さんの案内で焼津港、久保山愛吉さんの墓所の弘徳院、愛吉さんと妻すずさんのお墓などをめぐり、焼津のビキニ事件をたどりました。

夕方からは歴史研究者の枝村三郎さん(協会専門委員)から、当時の焼津における漁業被害、汚染魚の獲れた海域、事件当時のキーパスンとその動き、福竜丸以外の焼津の被災船についてお話を聞きました。



翌日は静岡大学を訪れ、キャンパスミュージアムで静岡副学長の山本義彦さん(協会理事)による講義です(写真)。同ミュージアムにはビキニ事件のコーナーが設置されており、「死の灰」標本なども展示されています。

講義のテーマは「第五福竜丸事件前後の日本経済と日米関係」、一九五〇年代の経済状況、再軍備と財界の経済戦略、保守合同に至る背景などについて

説明を受けました。

ミュージアムと放射化学研究施設を理学部の和田秀樹教授の案内で見学し、学食で昼食をとってしばし学生気分を満喫しました。

今回の焼津、静岡でのビキニ事件フィールドワークを今後のガイド活動等に反映させていきたいと思えます(ボランティアの会)。

## 東京都の東部公園事務所長と面談

6月30日、協会役員は、東部公園緑地事務所長との面談をおこないました。協会からは、川崎昭一郎会長、山村茂雄理事、日塔和彦評議員、安田和也事務局長が、東部公園からは、小川泰和所長、長島和雄管理課長、白石和光維持係長などが対応し、展示館建物の補修、エンジンの保存や学習室などの施設拡充について報告、意見交換しました。

## 全国博物館長会議開かる

6月11日、文科省で第15回全国博物館長会議が開催され、教育基本法の変更にもなう博物館法の改正案をはじめとする行政説明があり、部会協議では「新しい公益法人制度について」報告と質疑がなされました。協会から川崎会長が出席しました。

## 平和行脚・反核火のリレー

6月14日日本山妙法寺の平和行脚が広島に向けて出発しました。出発にあたり木津上人は、「心が非暴力であれば、行動も非暴力です。平和を祈念して広島に向けて歩いていきましょう」との挨拶しました。協会から安田事務局長が激励の言葉を述べました。

6月5日には、毎年続けられている実行委員会による反核火のリレーの終結式が福竜丸エンジンの前で行われました。